

アンデレ便り

フィリピン中央教区、タクロバオ主教ご夫妻神戸教区訪問

9月29日長崎で举行された九州教区宣教150年記念礼拝説教者として招聘されたフィリピン中央教区、タクロバオ主教ご夫妻が5月1日（木）神戸に来られました。

同主教とは私がミカエル教会牧師であったときからのお付き合いで、かれこれ8年になるでしょうか。

フィリピンの人びとへの援助

ミカエル教会は阪神大震災で甚大な被害を受けましたが、教区内外から様々な援助を受け無事復旧することができました。これをきっかけにして、特に自然災害によって困窮化にある人たちへ援助の手を差し伸べようということで、教会を代表して私と信徒の佐藤信友さんがフィリピンに渡り、当時フィリピン聖公会大聖堂主席司祭（デーン）のタクロバオ司祭と出会ったわけです。トリニティー・カレッジ（現在はユニバーシティー）のチャプレン、ポテンガン司祭と共に、大噴火したピナツポ火山の麓のラウイン村を訪問、ここで先住民族であるアエタ族の子どもたちとも出会いました。このようにして、ミカエル教会は4年前、アエタ小学校の側に図書館を寄贈、今年は同小学校の多目的ホール建築工事のために献金を献げました。これは、ミカエル教会とフィリピン、トリニティー・ユニバーシティーとの協働プロジェクトの一環です。

その後、ミカエル教会の聖霊降臨日の説教者として、私の主教按手式にも同主教を招待しました。タクロバオ主教ご夫妻は神戸市内見学の後、夜は、芳我司祭、與賀田執事も加わり、長田区高架下の焼き肉店での日本風韓国料理を満喫、2日（土）に広島市の平和公園などを訪問。3日（日）広島復活教会で説教を奉仕され、6日（月）フィリピンに旅立ちました。

ミッション・トゥー・シーフェアラー世界協議会 (MtS Consultative Forum)

海員への宣教と、海員の福利厚生を支援する聖公会の世界大組織であるMtSの協議会が5月12日（月）より15日（金）まで、世界各国より担当主教7名（アジア、イギリス、スコットランド、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ）、チャプレン代表、信徒職員、本部関係者計約40名が集い、北アイルランド、ベルファーストで開催されました。

理由は定かではありませんが、アジアの聖公会主教のなかで私にだけロンドン本部から参加要請がありました。しかも約60ページの事前配布の文書を読んできなさい、とのお達しです。MtSの働きや現状も十分に把握しきれていない私にとって、朝から晩まで会議室に缶詰になり、しかも英語の銃弾を浴びっぱなしの毎日ではやりきれません。不遜な言い方ですが、新型インフルエンザ蔓延により会議中止の報を心待ちにしておりました。それも空しく重い腰を上げての出発でした。

孤独なチャプレン

機内で残りの約30ページの報告書を読みました。特に「宣教—MtSチャプレンの孤独」と題するオーストラリアのチャプレンの悲壮な報告書が目にとまりました。故郷を離れ、1年の殆どを海上で過ごす船員は家族や友人と離れ孤独な毎日を過ごします。船員をお世話するチャプレンはどうなのでしょう。

オーストラリア大陸海岸線に散在する港は巨大でも、町は小さく楽しみは少ししかありません。いつ何時船員から電話の呼び出しを受けるか分かりません。オーバーワークになり、隣接港との距離が遠く、チャプレン同士の関係も希薄になりがちです。加えて、チャプレンの仕事に理解を示そうとしない教区主教や聖職が多く存在します。孤独な毎日を送っているチャプレンへの励ましや祈りが切に望まれていると報告書は訴えます。

5月のロンドン

ロンドンには土曜日夕方到着。ホテルはトラファルガー広場東、ストランド通りに面し、チャーリングクロス駅に近く、裏はコベント・ガーデンで、交通の便が最適な場所です。早速、ロンドンのなかで私が一番好きな場所の一つ、コベント・ガーデンを訪れました。土曜日の夕方でもあり、観光客でごった返し、大道芸人のパフォーマンスには50名以上の見物客が楕円形に囲み、二階のパブからもビールを片手に、楽しそうに見下ろしております。芸の面からいえば、プロフェッショナルとはいえないしろものですが、野次馬との丁々発止が観衆の大爆笑を誘うのです。とはいっても私の英語理解能力は半分以下で残念ではありますが、日本のテレビで演じられる落語や漫才を理解できる外国人はそういません。私が英国のそれを理解できたとすると、これは奇跡に近いことになります。

20分楽しんだ後、マーケット内の地下の広場に足を運びました。そこではバイオリン、チェロ、ベースの弦楽四重奏団が、クラシック音楽を演奏、やんやの喝采を浴びております。

5月の英国は、長い冬が終わりを告げ、つぼみが次第に花を咲かせる季節で、復活節には、英国の人たちも開放感に溢れていることを実感しました。機内で夕食をすでにしておりますので、コンビニでサンドイッチとビールを買い部屋で寂しい夕食と相成りました。

翌朝は、オックスフォードサーカス近く、マーガレット通りの諸聖徒教会へ。内部を改装中でしたが、ほぼ満員の会衆で、ソレム・ハイマスで聖歌隊は、奇しくもエルガーの「アベ・ベルム・コルプス」を唱っておりました。これは復活日、ミカエル教会聖歌隊が唱ったのと同じ曲です。この教会は、アングロ・カトリックの伝統を堅持する教会の一つで、今年は日本聖公会宣教と同じ、教会創立150年目で、記念礼拝にはこの教会の牧師をしていた、前ヨーク大主教、ホープ主教が、聖霊降臨日にはロンドン教区主教が説教者とし

て招待されていることを知りました。

日本人聖公会会衆

午後2時、ファーガソン夫人とホテルで待ち合わせ、ニューモーデンのファーファソン宅を訪問。ロンドン在住の聖公会関係日本人会衆に属する人たちと会うためです。急な要請でもあり、集まったのは5名。お茶を頂きながら定期的にかかれる礼拝や集会について情報交換。ロンドンには3、4のキリスト者グループが存在し、互いに安否を気遣いながら礼拝や集会を定期的にかいているそうです。ファーガソンさんたちのグループは今井司祭の提唱によって始められた、ロンドンミッションの流れを汲むものです。シンガポールの日本人会衆の礼拝に参加した後親睦会が行われた時にも話しましたが、英国にあって孤独で寂しい思いを抱いて生活している人たちに何らかの援助の手を差し伸べるためにも、このようなグループの働きが必要ではなかろうかと、私の意見を述べさせていただきました。夕方はニューモーデン近くの韓国料理店に。ここニューモーデンはヨーロッパで最大の韓国人社会が形成されている場所なのです。

協議会開催

5月11日(月)午前ヒースロー空港へ行き、待合室で3名の参加者と合流し、ベルファーストへ。いよいよ協議会が開始されます。

ホテルでの朝食後、バスにのってベルファースト大聖堂の会議室で話し合いが終日もたれます。昼食後、大聖堂内の小礼拝堂で聖餐式が献げられます。午後5時まで会議が続けられます。7主題、18細目の協議は、事前配布された資料を発表者が読み上げるのではなく、要点を数分で述べ、話し合いが開始されます。主なテーマは「宣教」「エキュメニズム」「情報交換手段」「政策執行」「海運界の現状」「MtSロゴ」で、チャプレン、担当主教、本部など、それぞれの置かれた立場からの意見交換が行われます。私は担当主教として、十分には承知しておりませんが、日本の現状を考慮しながら、主教の立場から、センターをどのように背後から支援していくのか、カトリック教会との協働問題について意見を述べました。



会場のベルファースト大聖堂

鐘楼が無く、平和を象徴する金属の針が立っています



聖餐式が献げられたエキュメニカル礼拝堂
ボーイスカウト、ガールスカウト運動のためのステンドグラス

夕食の席でオーストラリアからの主教と話をしました。3年前、MtS世界会議の時、イギリス・ダービー駅で私が初めてあったMtS関係者がこの主教です。主教曰く、「あの時私は緊張していました。担当主教になって2年目で何が起こるのかさっぱりわかりませんでした」。同じ思いで会議に出席している人もいるものだと安心した次第です。

会議3日目の夜はベルファースト港マリナーズ・センターを訪問、食事の後、アイリッシュ音楽に耳を傾けながらダンスを見物しました。4, 5年前、大阪城ホールに「リバーダンス」を見物しましたが、アイルランド独特の音楽とリズムはアメリカのカントリーやジャズそしてロックに大きな影響を与えてきました。



アイリッシュダンス

北アイルランド事情

英国聖公会ハル教区の補佐主教が私に驕ってくれるそうです。「飲み物は何にしますか」と聞きかれ、私は即座にアイリッシュウイスキーの定番「ジェムソン」と応えますと、そ

ばにいた北アイルランドのチャプレンが「ジェムソンはカトリックであり私は薦めない。聖公会はブッシュミルを飲む」とおっしゃるのです。大聖堂参事は会議で「ここ北アイルランドでは、海員宣教にカトリック教会と協働することは不可能に近い」と言っていたことが頭をよぎりました。協議会参加者に対しての最初の警告は「絶対に地元のパブに入らないこと」でした。馴染み客でない者が突然パブに現れると何か意図があって訪れたのだと見なされ、それが騒動のもとになる危険性が大であるということです。



協議会最後の日、そのブッシュミルのウイスキー工場を見学しました。生産ラインをみますと、何とそこにはジェムソンの箱にボトルを詰めているではありませんか。ジェムソンはブッシュミルからも原酒の供給を受けていたのです。アイルランドのウイスキーは、一足早くエキュメニカル運動を行っていたのです。ちなみに、ウイスキーはもともとアイルランドが発祥の地であり、ヘンリー二世が1170年、スコットランドを征服すると共にもたらされたという説があります。

総主事のビル・クリスチャンセン司祭がこの6月をもって退職、若いトム・ヘッファー司祭が後を引き付きます。日本の関連では、日本の3センターと韓国、釜山が一つとなりMtS東アジア協議会がまもなく立ち上がります。情報交換と共有する問題解決を図り海員宣教と福祉に貢献することが期待されます。



ビル総主事と

聖ミカエル大聖堂聖別50年記念式典

大聖堂参事会と神戸伝道区代表者がこれまで2回集まり、9月27日(日)を中心にした記念式典についての協議し、前日、当日のプログラムの概要が確定しました。

記念礼拝は教区礼拝としますが、27日が日曜日と重なり、中四国地方からの組織的参加は極めて困難です。従って神戸伝道区を中心にして計画が立案されることになりました。式典概要は以下の通りですが、教区内各教会信徒の方々の参加を希望します。

9月26日(土)

15:00 USPG総主事マイケル・ドー (Michael・Doe) 主教とミャンマー聖公会大主教、スティーブン・ミント (Stephen・Than・Myint・Oo) 主教の講演会

17:00 歓迎夕食会 (大聖堂地下・すきやき)

9月27日(日)

10:30 記念礼拝 昼食 カレーライス

13:30 大聖堂50年の歴史 (パワーポイント)、伝道区内各教会だしもの

15:00 終了

※次代を担う青少年を中心に、式典準備・後片付けの奉仕をお願いしたいと思います。

※26日(土)のすき焼きパーティーは、1960年代、八代斌助主教時代、教区会、海外関係者歓迎夕食会などの機会に行われたものです。当時「まるじゅう」の肉が定番でしたが、残念ながら「まるじゅう」、今は存在しません。



ミカエル大聖堂入り口